

学力向上推進員 5年主任	委員 教務主任 2年主任 4年主任	研修主任・1年主任 3年主任 6年主任
-----------------	-------------------------	---------------------------

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す児童の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 課題に対して一生懸命に取り組む児童が多い。どの学年もその学年の学力を平均的に身に付けている。	①基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。 ②読書量を増やし、文を正確に読み取ることができる。	全国学力調査、ステップアップテストで、平均正答率が県平均以上を目指す。 国語と算数のテストで、低学年は85点、中・高学年は80点以上80%を目指す。		①ノート指導や板書の工夫については、研修を通して取り組んだ。授業のふり返りの書かせ方を共通理解し、見取ったことを次時に生かすようにした。 ②朝の活動の読み聞かせでは、いろいろな種類の本を読み聞かせることができた。	全国学力学習調査、ステップアップテストとも平均正答率が県平均を上回った。 テストに関しては、低学年は85点、中・高学年は80点以上80%を達成できた。
課 題 量と測定や図形について、知識・理解が十分でない。 読書量が少なく、長文を読み取る力が弱い。	①板書・ノート指導を充実させ、言語環境を整える。 ②読書の時間を確保し、いろいろな本を紹介したり、物語文だけでなく記録文や新聞などを読んだりする機会を設ける。	①1週間に全員のノートを点検する。 ②1週間に1回読み聞かせをしたり、一人でじっくり読書をさせたりする。		評価 A ・速読の力をつけるために、低学年から1分間でどのくらい読めるかが自分でもわかるように朝の活動で使っていたドリルを見直し、速読ドリルを活用して指導していく。 ・量と測定や図形については、具体物を操作しながら定義や意味、言葉などを繰り返し指導していく。	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す児童の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 体験的な学習や課題を解決する学習に意欲的に取り組める。 小集団で話し合ったり教えあったり、自分の考えを発言したりするのは得意である。	相手や目的を意識して、根拠や理由を明らかにしたり、自分の考えと友達の考えを比べたりしながら発言するなど、自分の考えを豊かに表現することができる。	「自分の考えを意思表示したり、発言したりしている」と自己評価する児童を前年度より増やす。 「授業中話を聞いている」と自己評価する児童が90%以上を目指す。		発表について全職員で共通理解を図った。全員の前で発言することだけが発表ではなく、ペアやグループ内での発言も発表だと児童にも伝え、自分の考えを表現できるようペア・グループ学習を行った。研究テーマに沿った研究授業も実施できた。	「発表」については、挙手して指名されることが発表であると捉える児童が多かったのか、肯定的回答が前年度よりも下がった。 「聞くこと」については肯定的回答が86%で90%には到達しなかった。
課 題 根拠や理由を明らかにして自分の意見を自信をもって発表したり、友達の考えと比較しながら発言したりすることに課題がある。 自分の考えや思いを文章で表現することに課題がある。	①学習活動の中で、友達と意見を交流したりする活動(ペア・グループ学習)を意図的に取り入れる。 ②自分の考えを文章に書く・表現する機会を意図的に設ける。 ③課題に応じた研究授業を実施する。	①ペア・グループ学習を1日に1回以上実施する。 ②根拠や理由を明らかにして自分の考えを表現する機会を1週間に1回以上実施する。 ③1人1回研究授業をする。		評価 B ・発表については、引き続きペア・グループ学習の中で自分が発言したことも発表になることや、意思表示することも発表であることを児童に伝えていく。根拠や理由を明らかにして意見を言うことにまだ自信がもてない児童も多いので、ペア・グループ学習の機会も多く設定していく。 ・話を聞くだけでなく、相手を見て自分の意見との相違点や共通点を考えながら聞くことができるよう繰り返し指導していく。	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す児童の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 目的があると、授業や家庭学習に真面目に取り組む児童が多い。	自ら課題を見つけ、積極的に学習に取り組み、自信をもつことができる。	「家庭学習に時間を決めて取り組んだ」と自己評価する児童が90%以上を目指す。		①主体的な体験や活動を取り入れた授業はできていた。 ②家庭学習の手引きを活用し、児童に指導した。また学年便りや学校便り、学力向上便りでも発信した。	家庭学習に真面目に取り組む児童は多いが、時間を決めて取り組んだと肯定的回答をした児童は、62.5%、保護者アンケートでも肯定的回答は56.5%と前年度より大きく下回る結果となった。
課 題 言われたことはできるが、自分で課題を見つけることに課題がある。 自主学習を工夫したり、集めた情報をわかりやすく整理したりすることが十分ではない。	①児童の主体的な体験や活動を取り入れた授業をする。 ②「家庭学習の手引き」をわたり、適宜指導すると共に、学年便りや学級通信を通じて家庭との連携を大切にし、家庭学習の習慣化を図る。	①主体的な体験や活動を取り入れた授業を、学期に1回は実施する。 ②1か月に1回家庭学習について話し合い、見直す機会をもつ。また、様々な便りを通じて家庭にも発信する。		評価 B ・家庭学習の仕方を各学期の始めに具体的に指導し、その仕方を身に付けさせる。学期に1回は学力向上便りを発行して、家庭と学校が連携して学習の仕方を定着させていきたい。また、発達段階に応じて、時間を意識して家庭学習に取り組めるように指導したり、保護者への啓発の方法も考えたりしていきたい。	次年度における改善事項

平成31年度(令和元年度) 学力向上ロードマップ

